



米国食肉輸出連合会は、日米の食肉業界の飛躍に貢献できるよう努力しております。

Trader's Be&Po

米国食肉輸出連合会 (USMEF) <http://www.americanmeat.jp>

Volume 027 Apr 25, 2005

Trader's Be&Poはメールでもお届けします。ご希望の方は、下記にご記入の上、FAX返送してください。

お名前

様 メールアドレス

@

FAX番号 03-5542-2912

「Trader's Be&Po」はインターネットでもご覧いただけます。
ご希望の方は、下記URLからダウンロードしてください。
<http://www.americanmeat.jp/publications/tnf.html>

★「Be&Po」とは、Beef (牛肉) とPork (豚肉) を合わせた言葉で、アメリカン・ミートがもたらす豊かな食の世界を表現しています。

BSE関連ニュース

●北米3カ国、対BSE輸入基準で合意

4月1日、米国農務省はカナダ、メキシコと、BSEリスクの軽減を目指した調和的な牛肉輸入基準に合意したと発表した。同基準は、国際獣疫事務局 (OIE) が定めた現行の家畜の保健に関するガイドラインと規約修正案を全面的に反映した内容で、科学的な根拠に基づいて人・家畜の保健と食品安全を保護する一方、3カ国で生産される肉牛・牛肉製品の安全を保証した貿易の枠組みとなっている。基本的に輸入ではと畜時に特定部位の除去を徹底し、輸出ではBSEが発生した総頭数の肉牛の出荷を禁止すれば、生体牛の輸出入で消費者に大きなリスクはないという立場をとっている。各国の規制手続きが完了次第、実施される。

今回基準合意はあったが、米国のカナダ産生体牛の輸入再開はまだない。しかし米国、カナダ両国の農務長官は、先に開催されたグループ会議で、牛肉貿易正常化への決意を再確認し、また北米で実施中のBSEリスク軽減対策の効果が確認できる実施期間・状況、国民の認識向上の必要性についても話し合っていることから、再開への具体案の選定が水面下で行われるのもそう遠くないという見方もある。

※2005年4月4日 Cattle Buyers Weekly&2005年4月13日 USDA NEWS RELEASE

米国食肉市場ニュース

～ 牛肉 ～

牛肉市況(4月4日～8日)

●週間と畜頭数：58.2万頭(前年比2.8%増)。

●肥育牛の取引価格(100ポンド[約45kg]当たり)：

主要5市場では平均90.15ドル(前週比4.30ドル安)。

枝肉価格は平均144.85ドル(同6.85ドル安)。

●牛肉価格：歩留まり等級3(YG3)のチョイスは154.04ドル(前週比1.32ドル高)。YG2～3のセレクトは141.14ドル(同0.04ドル)。

オクラホマシティにおける新規導入牛の体重別、100ポンド(約45kg)当たりの価格(US\$)

体重(ポンド)	4月4日～4月8日
950～1350 4～7才	765.00～830.00**
950～1350 5～6才	835.00～900.00
1100～1250 2～4才	960.00～1040.00
1150～1325 7～8才	925.00～995.00

**3月28日～4月3日

※2005年4月8日Cattle Outlook
(Glenn Grimes & Ron Plain)

～ 豚肉 ～

豚肉市況(4月4日～8日)

●週間と畜頭数：198.4万頭(前年比0.6%増)

●肉豚の現金取引価格：主要市場の価格は0.74ドルから3.16ドル安の間で推移した。



米国食肉市場ニュース

～ 豚肉 ～

豚肉市況(4月4日～8日)

主要市場における100ポンド(約45kg) 185ポンド物(約83.5kg)の 100ポンド(約45kg)当りの豚肉製品価格(2月11日/US\$)
 当たりの最高価格(US\$) 枝肉平均価格(US\$)

	3月25日		4月8日
ペオリア	45.00	東部トウモロコシ地帯	64.84
セントポール	45.00	西部トウモロコシ地帯	66.99
スーフォールズ	47.00	アイオワ・ミネソタ	67.17
ミズーリ東部	N/A	全 国	66.05

製品名	価 格 (前週比)増減	備 考
ロイン	111.89 (-9.36)	トリム1/4インチ
ポストン・バット	88.00 (-6.00)	トリム1/4インチ
ポークベリー	N/A	14～16ポンド物 (約6.3～7.3kg)
ハ ム	59.00 (変動なし)	20～23ポンド物 (9.1～10.4kg)

※2005年4月8日Hog Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

市況ニュース

●第1四半期、米国牛肉需要は下降

牛肉需要は、全般的にここ9カ月間下降している。今年第1四半期は前年比で数パーセント減少し、第2四半期も同程度かさらに下がる兆しがある。他の食肉に比べて高い価格や主要な海外市場への輸出中断に加え、光熱費の上昇による可処分所得の減少やカナダ産生体豚の関税撤廃も影響している。

原油1バレルあたり10ドルの値上がりで、税金は500億ドル増額といわれるが、数週間続いているガス料金の値上がりも、夏まで続く模様。一方国際貿易委員会が、カナダ産生体豚の輸入で米国生産者への損害なしと判断して関税撤廃となるため、輸入は約100万頭増加する。枝肉重量の上昇も手伝って、豚肉生産量の1～2%の増加も予想されるため、精肉売場で牛肉の競争力にマイナスに作用する可能性もある。今後は出荷可能な肉牛が増えてくるので、市場を左右する需要の動向が注目される。

※2005年4月11日 Cattle Buyers Weekly

業界ニュース

●スミスフィールド大規模工場新設へ

米国ビーフパッカー業界5位の同社は、サザン・プレーンズ(オクラホマ南部～テキサス北部)に、1日2,500頭の処理・加工能力のある大型工場の建設を計画している。当面は第1シフトで操業するが、第2シフトもフル稼働すると、1日当たりの処理能力は既存の5工場の8,000頭と合わせ、4位のナショナル・ビーフパッキングと同規模となる。現在工場候補地を3～4カ所に絞りこみ、1～2カ月以内に建設地と詳細を発表する予定。この規模の工場新設は1990年のIBPのネブラスカ工場以来。

※2005年4月11日 Cattle Buyers Weekly

●米上院議員、食品安全機関統合の法案を提出

4月6日、民主党上院議委員2名が、現在ある35の政府機関を一元化して「食品安全行政局」を新設する食品安全法案を提出した。新機関の業務としては、無作為に選んだ食品加工工場の定期検査や輸入食品の監督強化、全国的なトレーサビリティ制度の確立などを挙げている。両議員は、農務省がペパロニピザ加工工場を毎日検査する一方で、本来チーズピザを管轄する食品薬品局は10年に1回しか点検しないこともあると、食品安全行政上の問題を指摘している。



業界ニュース

新機関の職員数は14,250名、組織改革予算は19億ドルを想定している。両議員は「米国には世界で最も安全な食品が最も豊富にあるが、今の食品安全制度では、多数の連邦機関が35通りのルールブックに従って試合をしているようなものだ」と述べている。

※2005年4月7日 meatingpalce.com

●健康志向は球場の食品売上でも顕著に

米国メジャーリーグ球場の売店運営会社、Sportserviceの報告書によると、これまで野球観戦にはホットドッグやクラッカー・ジャックが定番だったが、最近はヘルシーで斬新なメニュー・手作り・高級化の傾向が進んでいるという。各地の地域性を反映したメニューも多彩で、次のような味が楽しめる。グルメホットドッグ、シーフード・チキン・フィッシュのタコス、チーズグリルソーセージ、ケージャン風ミックスグリル・プロシエツト（野菜、肉、海老の串焼き）、オーガニックラムチョップ、鮮度保証付きアラスカ産オヒョウ、海老パエリア、パルメサンチーズ味フライドポテト等

また低炭水化物嗜好を反映し、どのミート料理もサンドイッチ以外に串焼きでも販売されている。同社はホームページで野球場メニュー人気コンテストを実施中。

「www.iloveBallparkFood.com」

※2005年4月5日 meatingpalce.com

新連載コラム「Impressions」をスタートいたします。業界の方々の意見や本音など“生の声”をお届けいたします。

Impressions

— 第1回 —

頑張れ業界人

この業界に長きに渡ってお世話になり、色々と雑社会学を学ばせて頂いた。その中で自戒の念も含めて感じるのは、我々は物を売るが故にマスコミを怖がっていないかということである。特にここ数年はBSEやO-157等、マスコミ先導型の世論形成に眉をひそめながらも、我々はマスコミの見えざる手に半ば無力であったと思う。その一方で、偽装表示など社会人としてあるまじき言動が発覚し、マスコミのお世話になっているという醜態。今世紀は、顧客満足のために品質と安全はもとより、顧客の信頼を獲得するための情報提供と、顧客教育を柱としたマーケティングの時代ではないか。我々一人一人が過去の経験に奢ることなく、顧客心理を「科学」し、上手にマスコミを利用して、より広い情報の発信をして行くべきではないか。BSEは怖くない。しかし、我々が科学的根拠を理解し顧客心理を把握できなければ、顧客のBSEに対する不安や恐怖心は払拭できない。他力本願に陥ることなく、我々がまず学習し、顧客を教育・説得してゆくだけの勢いを持つてはいないか。そして、マスコミは我々の対応次第で心強い仲間になってくれるであろうことを忘れてはならない。(差無)

This project partially funded by US beef producers.